

講義名	経済特別演習（経済学部：4年生のみ）			授業形態	
担当教員	中島 孝子 / 羽森 直子		開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	
	単位数	2	履修開始年次	3年生	ナンバリング・コード

主題と概要

経済学部では、公と民、地域と世界など、複眼的な視点で現代社会が直面するさまざまな経済問題を分析し解決策を提案できる人材育成を目指している。経済特別演習（「特別セミナー」）は、経済学的思考法を必要とする業務・業界を志す、特に学習意欲の高い学生に対して、ディスカッションなども通じて経済学を学ぶプログラムである。具体的には大学院、企業・官公庁および銀行・証券会社など金融業界の調査・研究部門などをめざす学生に受講を勧める。経済特別演習（「特別セミナー」）では、これまでに身につけてきた基本概念を応用することを学ぶ。同時に、具体的な進路とそれに伴う試験（大学院入試や入社試験、口頭試問、面接など）に向けた準備をする。

到達目標

本科目では以下を到達目標とする。
 1 これまでに獲得してきた経済学の思考法にもとづき、社会の様々な問題に対して経済理論に基づく分析と対策の検討を行うための基礎的能力を確実に身につける事ができる。
 2 自分の意見・考えを論理的に表現できる。
 本科目は、演習の要素の強い科目であるため、対面授業のみとする。

提出課題

授業中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題提出後、講評と解説を行う。場合によっては、課題の修正と再提出を求める。

評価の基準

平常点75%、レポート課題点25%

履修にあたっての注意・助言他

受講態度が悪い場合には減点する。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

必要に応じ資料を配布する。

授業計画

- 第1～2回 卒業後の進路・基本概念の復習と応用1
 - 第3～5回 応募書類の作成・基本概念の復習と応用2
 - 第6～8回 論述筆記1・基本概念の復習と応用3
 - 第9～11回 論述筆記2・基本概念の復習と応用4
 - 第12～14回 口頭試問または面接・基本概念の復習と応用5
 - 第15回 まとめ
- *15回すべて教員2名（中島・羽森）が担当する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

課題作成のための調査、情報収集を行うこと。（2時間×15回）
 課題の文章を作成すること。（2時間×15回）（合計60時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経済学を中心とする学びを通じ、経済学部の学生は、現代社会における問題を観察し、課題に対する解決策を提案できることが求められる。それらは、大学院でさらに学んだり、企業・官公庁あるいは金融業界の調査・研究部門で仕事をすることにあたって、必要な「力」である。本科目は、経済学的思考法を必要とする業務・業界を志す学生を補助する役割を担う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

なし

備考

本科目では、少人数での指導・支援のため、定員を設定し選考を行う。
 選考基準は、「大学院進学または、企業・官公庁などの調査・研究部門への就職をめざす4年生」である。
 また、経済特別演習（「特別セミナー」）を3年次に履修していることを推奨する。